

「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。

病気にかからず、すこやかでいなさい。」

マルコによる福音書 5章 34節

I 祝福の喪失

イエス様の伝道の旅の途中で婦人病の女性がイエス様の衣に触り、癒されるという出来事が起きました。この女性は流血が止まらず、12年の苦しみの後に相続した財産を医師につぎ込み、青春時代が病で閉ざされ、社会的にも差別されていたのでした。

現代でも原因不明の難病が人々を苦しめますが、肉体の病は勿論、心に傷を受けた多くの人々が青春時代を無駄にし、或いは差別され、本来神の子である人間が祝福の中どころか災いの中に閉ざされているのを発見します。

自分自身の課題に直面できず、或いは分かっていても同じパターンを繰り返し、神様が与えようとしている祝福を喪失してしまうのです。

II イエス様への期待

この女性の最後の希望は、人々の噂のイエス様でした。人々はこの人こそ救い主、キリストではないかと言い、現に神の人でなければあり得ない癒しの奇蹟や赦しの宣言がなされているということでした。女性は自分自身にも友人にも医師にも社会にも絶望していましたが、イエス様の名を聞いたとき何か温かいものが心に広がりました。「そうだ、この方に最後の希望をつないでみよう。」との思いが不思議に心の奥から湧き上がってきたのでした。当時、婦人病の人は人々の前に出られませんでした。人々の陰からイエス様の衣に触ることがこの女性の最後の勇気の表われなのでした。

III イエス様との会話

驚くべきことに女性は瞬間的に癒されました。血の源が乾き、ひどい痛みが治り、腰をかがめることもなく、本当に解放された、すっきりした気持で歩き出したのです。

ところがイエス様は女性を探して群衆を見回しておられました。そこで、この女性はイエス様の温かくも決然とした視線を感じ、自分の身の上に起こったことを余すことなく打ち明けたのです。なぜ、イエス様はこの女性を探したのでしょうか？それは、この女性と会話する為でした。信仰とは唯、出来事が改善されることではありません。心がイエス様と結びつくことが最重要なのです。そのためには、

①自分のこころの底の思いまでイエス様に打ちあけること

②イエス様から祝福の約束をいただくことが必要です

これらは、イエス様と一対一の個人的で人格的な関係づくりのために重要なのです。

③健やかでいなさい と言うのは、神様の祝福の中にとどまりなさいと言う意味です。

女性は12年の人生を婦人病のために無駄にしたと思っていたかもしれません。しかし、婦人病の苦しみのゆえにこの女性はイエス様に出会い、癒しと祝福の言をいただきました。災いは決して失われない祝福に代わったのです。そして、その祝福を受け取ったのはイエス様に最後の希望をつないだこの女性のこころの姿勢にあったのです。